

## 習い事って早いほうがいいの？

子どもに習い事をさせるか迷うことも多いかと思います。習い事をさせる理由はさまざまであっても、大切なことは、子どもを見つめ、その個性に応じてじっくり時間をかけて育てるということではないでしょうか。

習い事をさせる場合でも、その習い事が子どもに合っているか、あるいは子どもに無理をさせていないかなどを見極めることが重要です。また、幼児の頃は、上達させることよりも、いわば、遊びの延長として、子どもが楽しんで興味を持つことの方が大事な場合もあります。

ベネッセ総合教育研究所の調査によると、早いうちから、読み書きや計算を教えることよりも、むしろ生活習慣をしっかり定着させることの方が、その後の順序だった成長に効果的であることがデータにより明らかになってきているそうです。

子どもの習い事を考えるときは、こうしたデータなども参考にしながら、じっくりと時間をかけて育てるという視点も大切にしてはいかがでしょうか。

参考資料：○文部科学省「家庭教育手帳 乳幼児編」(平成 22 年)

○汐見稔幸「幼児には遊びと生活の豊かさを」(ほんの木編「親だからできる5つの家庭教育」より)

○ベネッセ教育総合研究所「速報版 幼児期から小学1年生の家庭教育調査 縦断調査」(2016 年)

## コラム

## 五輪選手の育て方

オリンピックに出場するようなトップレベルの選手は、家庭ではどんな教育を受けてきたのでしょうか？

新聞社が平成 27 年のリオデジャネイロ五輪への出場選手の親 106 人を対象に子育て意識調査を行った結果によると、家庭教育で心がけたことについての問いに対しては、「やりたいことをやらせる」「嫌々させず、自主性に任せる」などの意見が 36 人で最も多かったそうです。逆に、家庭教育であえてしなかったことは何かとの問いには、「強制しない」「親の考えを押しつけない」などの意見が 36 人と最多で、次に「重圧を与えない」「競技の話を家庭でしない」などの意見が 10 人と続いています。

家庭教育で「心がけたこと」と「あえてしなかったこと」のいずれも、子どものことを気遣いながらも、気持ちを尊重する親の思いが窺えます。

トップアスリートだけでなく、どんな分野においても子どもの上達の秘訣は、「子どものやりたいという自主性を尊重しながら夢を後押しする」、そんな親の姿勢なのではないでしょうか。

出典：平成 27 年 8 月 18 日付読売新聞「五輪選手の育て方」

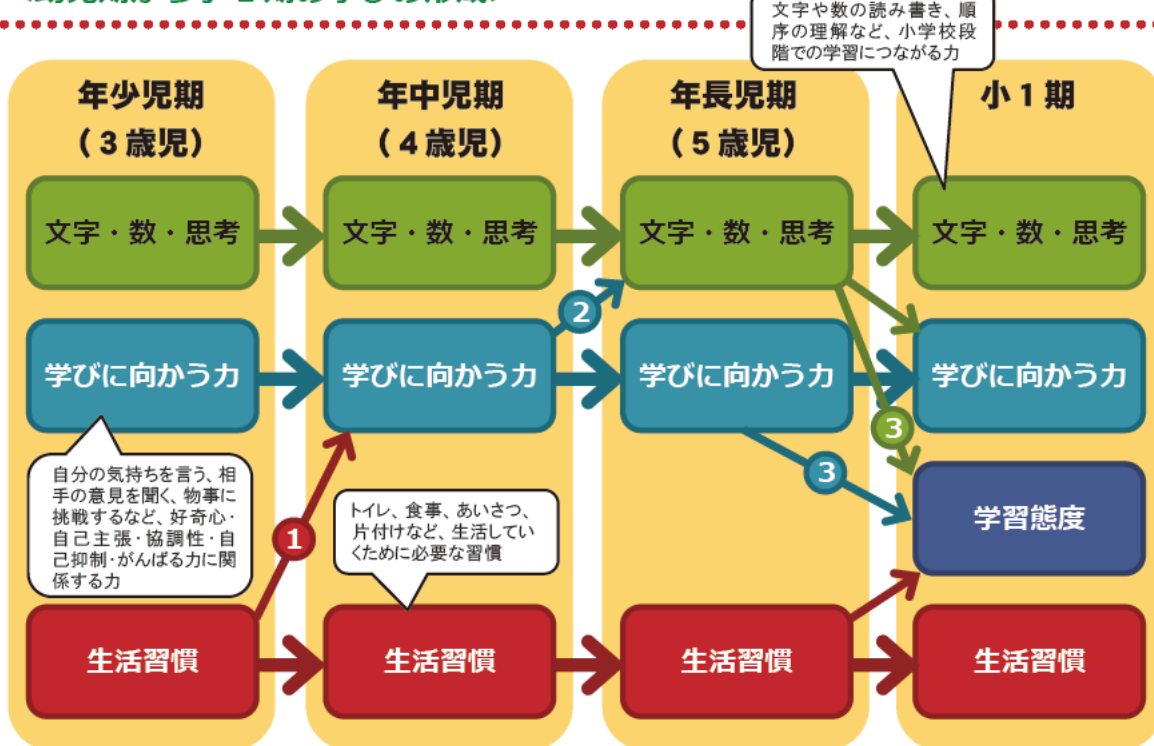


## <人気のある習い事 BEST 5>

- 1位 スイミング (17.2%)
- 2位 月1回程度、定期的に教材が送られてくる通信教育 (12.1%)
- 3位 体操(体操教室) (11.8%)
- 4位 英会話などの語学の教室 (11.2%)
- 5位 楽器(ピアノやバイオリンなどの個人レッスン) (7.3%)

資料:ベネッセ教育総合研究所「第5回幼児の生活アンケートレポート」(2016年)より抜粋  
 ※首都圏での調査で、現在、習い事をしていないと回答した人を含めた全員の回答を母数としている(複数回答)。

## <幼児期から小1期の学びの形成>



資料:ベネッセ教育総合研究所「速報版 幼児期から小学1年生の家庭教育調査 縦断調査(2016年)」を簡略化

年少児までに「生活習慣」を身につけることが、年中児の「学びに向かう力」へつながり (①)、そして、そこで養われた「学びに向かう力」が、年長児の「文字・数・思考」の力を育て (②)、小1期には、「文字・数・思考」や「学びに向かう力」が学習態度を育てていく (③) という子どもの学びのプロセスが見てとれます。

